



The Bony Computer Science Laboratories (Sony CSL) were founded in Tehenary 1938 for the sole purpose of conducting reason-freshing to compute actions. One objective, at stated in our mission statement, is "to contribute season-why on social and industrial development through original research that lanks about the contribute season-who are statement in exhibit the contribute season-who are the contributed to the contribute of our research in the contribute of the contribute of our research in the contribute of the contribute of the contribute of our research in distributed operating systems, computer networks, programming languages, human-computer interaction, and other fundamental aspects occurring refer research.

While the spiric of the original insura is still valid, redefining compare science in a Norder sense, we are now expanding our areas of research further into complex systems, bein a science, sperims holingy, and econophysics; all areas are impiring our reasorchers to bring new insight into work down on technology of the future. Buth member of the Sony CSL sen his or her own crearch gain time with chosen on technology of the future. Buth member of the Sony CSL sen his or her own creater has gain within their Conditionerscal research was created as within their Conditionerscal research and the sent research gain within their Conditionerscal and the sent research gain within the formation research. This is because we believe that individual visuing their own initiative or more visual to the sent of the

制物にコンピー・サイエンスに関する機能を受ける場として 1998年3月に混立されました。科学の設立施電源には、 「悪くべき11税に配理率を行せた、コンピーチの 歴史に残りろも補助を持った短期的を研究され、 これによって近く社会・環帯の影響に 「選挙するとこれります。」とあり、研究テーマは (1) 分数オペレーティンテンステム。

(1) 分散オペレーティングシフテム。 (2) コンピュータネットロータ、(1) ブログラミングステスト (4) ヒューマンコンピューティングラクションなど次表代を 和ラコンピュータンフテムの基礎を担うものが中心でした。 その後、夜文趣意の精神を受け継ぎつつ。

コンピュータテイエンスを収集に従え、投資系、脳科学、 システム生物学、経済物理学などを研究テーマに加え、 相互に影響を与えつつ新たな調査部誌に向けて 幅広く研究状態を展開しております。

研究者は、この研究所の基本的な研究 - マルエルベッで、 からのようが日の存む情報と対します。 そして、その研究機能である確定や 研究的ショトウェアなどは、すべて研究情報の名において 現立れるとはできます。 これは、可研究が大、研究とは未来。他人あるいは個人の 自由は本に基づく、関係の自動に行うもので、。

(1) 配達が基づく製剤が自動がよりらんので、 研究的はされたサポートする自然に置うさべきだと 考えているかという。また様人の関連対象を、観文 研究がリントウェア形成、技術と関係が含ましなり返れ が対し続いては必然が変わなりがあった。 が対し続いては必然があることにウェオッ かから、またが、はないはできるよう。で、関係であり、 解やの情で関節に対しております。

VA-DUY----- SONY COMPUTER SCIENCE LABORATORIES



community a well as industrial sectors.

Many of these recknologies have been transferred to beny Corporation and made components of Sony products, and some have also contributed to international transductivations excities. We are currently deeply involved us the creation of now research areas was ab 8 systems hilogy, Systems Rain Science, and Econophysics, and have had our contributions recognized by the fundamental science communities. In order up promote the international transition and diversification of our research activities, a new laboratory was founded in Paris, France in Corbot 1958, with research focused on cognitive mechanisms, evolutionary systems, and computational neutroscience, 18 1959, our Interaction Laboratory was founded for promoting a series of innovative research homes crelated to the interaction hereween computers and human beings.

 proposing, Sperin ystems as consistent research theme proposing, Sperin ystems as a consistent research theme supposing the proposing sperin ystems as a consistent research theme supposing to the proposing sperin ystems as a consistent supposing to the sperin supposing the proposing sperin supposing to the problem, and supposing the sperin supposing the problem, and subtracting its flowers, and subtracting its flowers in the subtracting its flowers and subtracting its flowers, and subtracting its flowers in the subtracting in the subtracting its flowers in the subtracting in the subtraction in the subtracting in the subtraction in the subtracting in the subtraction in the subtr

Sony CSL is composed of three Laboratories, the Fundamental Research Laboratory, the Interaction Laboratory, and CSL Paris.

In our Fundamental Renarch Laboratory (FRL), we research broad fundamental themse taked on a motified rebustness that is basic characteristic inducers to a sustainable open years. In our Lateraction Laboratory (LI), we investigate problems and postabilistic that occur when a human being which itself as no per yearnin interface with real world and network which are also open systems. In our CSL Paris, we are in a such ch human segminar from a cultural standpoint and is regging in research on a science of human being with the culture in the open system.

ソニーコンピューキテイエンス研究所に関皮は来、 その一度したテーマとして「個皮素」を関げています。 個皮素(cpen prisma)と出現底を(dand systems)に 対するものです。これまでの特別技術が関連の個販を光度し の方向、金融でよことによって個別を がしまいます。その一般の成果しまれない問題 がってよった。との一般の成果しまれない問題 がってはます。その一般の成果しまれない問題 がってはます。その一般の成果しては社会。 対が低います。その一般の成果しては社会。 はが成果やかかの知識を挙がことが含ます。 コンピュータンメネルに同じてはたば、 インターネトのような技术とファエルや ヒューマンコンピュータ・レッタ・ステール 等があることができます。インターネトトでは終く指す。 本ナケーターがあって一般があるまでことが終める。 機会の原産システムについての「分と地議を 特々でのたとして会様の表質を手間できません。 また、真に使いやすい利用者環境を提供するためには、 利用者でなから人間については、知らなければなりません。 とこのお人間は、扱いので表がか、その行動は大阪や 利用に関く値がし、人間を海光湖にのか立即して開発し、 定型づけようとすることには関係があります。 地域環境や特徴可能な対象についても同様です。 このような方をターマに同けて、 リニーコンピュータナイエンス様が自体環境での研究と リステル実現の研究を同時に行っています。 するから、そのエス連の研究をは 東京を計算するためので成としてコンピュータを 最大部に用し、真性を指定します。 エルジニアロッチを開め回答者はコンピュータや ネッドワータを規度第四一部に取り込め、気のして じたとさながありません。

ジェーコンセルータイネンスを使びに反抗、ジッカーの 基礎保管派、インタクテリュンフボラン・CSL Partic とって構成されています。基準保管(TRL)においては、 ナスキイナンなの展示の対一本体の特徴である。 ロバストネスというモナーフの基に広範を基礎的テーマを 研究しています。またインタラテシェンフラクトの (IL)は 関度表である人間は、同位と限度系である次変形や ネートワー変換さインタフェーズする原の 関連と可能をつかましています。 さらに、CSL Particは、人間を認知に交化的機能から 確定しており、これら「三つの社によって オープンシェストのイイエンスを基準しています。

Sony Computer Science Laboratorie

Mario Tokoro, Presiden 代表取締役社長·所長 所 真理線

Fundamental Research Laboratory

Hiroaki Kitano, Director

Systems Biology Systems Brain Science Statistical Physics Spatial Computing

インタラクションラボラトリー

Jun Rekimoto, Direct

Real-world Computing & Networld Physical Interactions
Content Creation & Media
Distributed & Heterogeneous Sy

Technology Promotion Offic

Tetsu Natsume, General Manager

Ox 19 A vt - Ve - RH ff

Taka Sasaki, Researcher

Technology Promotion & Transfer

Administrative Office

Yumiko Kitamori, General Manager

\$\text{\$\pi_+ \pi_2 \pi_+ \pi_+ - \pi_+ = \pi_+ \p

Human Resources
Administration & Workplace Solution
Control & Planning

SONY CSL / 19

Luc Steels, Directo

Sophie Boucher, Laboratory Manager

Evolution of Communication & Behavior Interactive Music & Digital Communitie Computational Neuroscience

















基別研究室(FRL)では、コンピュータティエンス及び コンピュータティエンスが変革の関となる研究協議を 対象とした基礎研究を行っています。 現代、研究テーキとして、システム条件学、システムを物学、 起対地理学、計算情報機等などの分野をはじのとして、 2017年の1911年により、 次世代の計算機科学などを担う研究を包含しています。

また、これらを模断するテーマとして、 また。これらを機能するデーマとして、 ロバスト・システムに関する研究が認められています。 細胞や振ら経時、人工物まで、オープンシステムに 普遍的に観察されるロバストネスの理解と、 それらの知見を基礎にしたロバストな動的機必性を示す でれらの別見で面面にしてリハストも別的知のしてもか。 システムの情報技などは、研究者の個性と志が高水準な研究の 延動力であることから各々のテーマや研究者の 延動力であることから各々のテーマや研究者の 個性の多様性を受け止める研究環境を備えています。

では、少ないの場合が大小の気候と、 くの基金としての需要ないというこのの関係において、 おたらな対象での対でしているがある。 場合では、はないでは、対象を一級に考えています。 場合ななな場合の関係が必然、成果については、 なった。とは、のは他のが必然を対しませない。 場合に関係すると考えられる場合では、 シェーコンピーティミンスを受所的において 最しいつきの機能へと発展します。

このようにFELの運営は、素軟かつシステマティック、 そしてデイナミックであり、自らの手で、 歴史を借り替えていこうという志と無点な個性を持った

FUNDAMENTAL RESEARCH LABORATORY

Understanding the fundamental principles of life requires living systems to be understood as systems, the Mille this should be well grounded in discernment at the molecular level — and rapid progress in molecular biology has revealed minch—systems biology. As a revealed minch—system biology, and the light on some of the deper junciples of life, propose "Systems biology", which is aimed as a system-level understanding can be a system-level understanding being systems, and an presently description of colourses, which retails in sudderstanding of the haster stronger or the system of the systems of the principles of robustness in biological systems, the trade-offs that exist in robust yet fragile systems, and the ability to evolve robust systems. Further research is now

HIROAKI KITANO 北對 宏明 / 取締役副所長

劇的に進展している分子生物学の成果を基盤とした 「システムとしての生命」の理解が必要になります。 私は、システムパイオロジーという学問分野を提唱し

特に、生命システムの持つ、ロバストネス(領徴性)の 背後にある原理、環境性と戦弱性のトレードオフ、 ロバストでありながら進化可能である アーキテクチュアなどに、中心的な興味があります。

主要疾患の予防や治療方法の研究に展開しています。

毎は自らのゲノム構造を変化させて、環境に対して より組織性を増すように生命システムが進化した生物機と

期待できます。一方、生体を構成する蛋白質はお互いの 機能を促進あるいは抑制することで複雑なネットワークを 場合、その中に含まれる抑制の働きをするリンクが 偶数の場合に分子スイッチの働きをすることが 発癌によってどのような変化をきたしているか 研究しています。またそれらを電子回路に置き換えて 記述することで、分子スイッチの生体システムにおける

遺滅するたびに、より早く、より強い攻撃をシステムに 開始させる「免疫記憶」の形成にかかわっています。 免疫系は、他の顧助内シアナル伝達経路と顧助間プロセス 小さなコアから成る様本クタイ型構造を持つことで 知られています。各種数タイプにおける刺激への応答の 違いを理解することは、免疫系の収斂を予測し、免疫系に

必要不可欠なコアの資素を決定する機会を与えてくれます。 そのような機械を発見すれば、異なったレベルでの 免疫系の相當性を維持し、疫病の発生や予防の仕組みを 系統的に理解することができるでしょう。

- NATALIA POLOULIAKH 73-17-81×1+-7

TETSUYA SHIRAISHI

画期的なシステム的療法を開発してゆきます。

.



Kaoru Yoshida, Cassandra L. Smith, and Ross. Overbeek (1994) A primer on rapid prototypinggenome database in Protog. In "Biocomputing-Informatics and genome Projects", edited by Douglas W. Smith, Academic Proess, San Diego, CA.

Kaoru Yoshida and Takashi Chikayama (1988) A'UM – A stream-based concurrent objectoriented language. Proceedings of 1988 International Conference on Fifth Generation Computer Systems, 638-649, ICOT (OHM)

Kaoru Yoshida, Michael P. Strathmann, Carol A. Mayeda, Chris H. Martin, and Michael J. Palazzolo (1993) A simple and efficient method for constructing high resolution physical maps. Nucleic Arch. Resourch, 21(15): 3551-3562 Our life has been modernized to be cleaner and more convenient with advances in science and rechnology, while antural energy resources are being rapidly consumed roward depletions, and executive amount of carbon disorder are being entired into the atmosphere, examing problems with global warming. The production of alternative sources of energy and the enhancement of earbon fixations are important insent that must be resolved today to sustain our civilized society as part of the natura. In my multiplaceplanary research raping from computer sections to soldewals beingly, there are the most programmed from the most programmed from the most programmed from the most programmed from the host programmed from both the days in the molecular dead on an unrestly inserved in the sign matched how life a programmed from both the days of microegnations and glatan, reporting life as a carbon morang in the global carbon regist. My research goal lite cluids at those molecular mechanisms, apply them to the production of bindies and enhanced carbon fixation, and develop a new biological system that integrates them.

Tokoro, M. & Mogi, K. eds. (2007) Brain and creativity. World Scientific.

Onzo, A. and Mogi, K. (2005) Dynamics of bettin behavior under flat reward condition. Internation Journal of Neural Systems 15, 93-99.

Mogi, K. (1999) Response Selectivity. Neuron Doctrine, and Mach's Principle. in Riegler, A. & Peschi, M. (eds.) Understanding Representation the Cognitive Sciences. New York: Pienum Press. 127-134. I am committed on a long term to solve the enigna of the bow the mind rates from the physical activities in the post-brain. Qualita, the tensory qualities that scommon brain. Qualita, the tensory qualities that scommon becomes proposed on the enderwork of the concerning the relation netween the findamental quantities of mentality and the more transible problems in cognitive nursewineties. In particular, the way the network based dynamics in the brain hundred network based dynamics in the brain hundred network based dynamics in the brain hundred environment it founds to be quite properly original and partyr franction events present the properly regular and partyr franction events present the properly regular and partyr franction events present the properly original form consistent with the environment it founds to be quite proposed with the environment it founds to be consistent with the environment it founds to be consistent with the environment is found to be consistent with the environment of strucks to the consistent of the property of

タオリア(感覚を特徴づける質感)を生み出す枠目機関を 研究しています。タオリアは、人間の主限が体験の 本質であるときた。圧倒的に実現的を過ぎてからなった 活度的な定態プロセスのイクターフェイスとして 活度的な運動プロセスのイクターフェイスとして 別なるセダリティにまだがら情報の核で(娘がつけ問題)。 神経球動による情報コーディンドにかける 時間パラメータので展、深固における運転と支法。 一時間の特殊からの学別、前途性、分体イメージ。 からの場合が、では、一時間の経過では、 からます。心理解の定くの可能の、コニュニーデッタクと、 からます。心理解の定くの可能の、コニュニーデッタクと、 からます、心理解の深く、MEO、AME との非常顕計画、 ジミュレーション、質問理論などのが反射が

Systems Brain Science

KEN MOGI

Qi Zhang, Ken Mogi (2006) Neural correlates of the continuous unidirectional motion perception two-stroke apparent motion, SFN 2006, 306.1.

Qi Zhang, Ken Mogi, Masanori Idesawa (2006) 3-D volumetric object perception from the dynamic pantomirme effect, Perception, Vol. 35 upplement, pp. 183-184.

Qi Zhang, Ken Mogi (2006) Representation of 3volumetric object from the pantonime effect in human brain, The Journal of Three Dimensional Images: Vol. 20, No. 3, pp. 15-20. The human brain is the most complex, upphisticated, and powerful information presenting device known. Brain science represents one of the largest research fromtiers and to meet the most important subjects for retires and exhanility in the list century. Yution is a recommendation of the most important subjects for retires and exhanility in the list century. Yution is a result of the most information regarding, the world. Understanding data information regarding, the world. Understanding that including the mechanism of the human visit system by measuring being acciding the wind of the human visit system by measuring being acciding that you will be a supportant to the proposal procures by connecting them with other higher-level human hards in functional procured in the performand and parietal correct, besiden of the occipital visual of the occipital visual and parietal correct, besiden of the occipital visual and parietal correct, besiden of the occipital visual and parietal correct, besiden of the occipital visual and parietal correct pariety and the occipital visual and parietal correct pariety and the occipital visual and parietal correct pariety and the occipital visual and pariety and the occipital visual and

Systems Brain Science

- QI ZHANG

技术機一郎、田谷文章 (2003) 『福とコンピュータはど) 通うか』 関節セプルーパックス

Furnihiko Taya, Ken Mogi (2005) Spatio-tempo dynamics of the visual system revealed in binocular rivalty, Neuroscience Letters, 381(1-

Fumiliko Taya, Ken Mogi (2004) The variant and invariant in perception, Forma, 19, pp. 25-37.

firm miss information that seems about if we we beforehand, so he biderbeard, so he wistedians occur, when the remains in out of "context". Many researchers have not particularly in fields such as neuroeconomics, and addition, it is welf known that we fit in the detect large ages in visual scenarios under particular conditions of the procession of the

We are currently exploring the role of "context" or "framework" in human cognition using psychological methods or recordings of brain activity obtained by EEG.

日地から、我では、毎回に知っていればべきらしいと 他であような情報を、たびたび間をしてしまいます。 なるような状況と、その情報が実施しかられてい いるまとはまます。、世間があり、物に神経経済から野では、 そくの研究が出版がまた。またがなの場合では、 現状でしまう。とが知られています。この機能は 大のサインストの様だったもの情報では、 現状でしまう。とが知られています。この機能は ナンシャナチャンストがまけないます。この機能は ナンシャナチャンストがまけないます。この機能は ナンシャナチャンストがまけませる。 の機能は、日本では、日本では、 の機能は、日本では、日本では、日本では、 に関いるとは、日本では、日本では、日本では、 対して、そのような神経がは、直接が見たといて、 日本に、人に関いたのは、では、日本では、 日本に、人に関いたのは、日本では、日本では、 日本に、日本では、日本では、日本では、日本のよりでできます。 の機能のこのでは、日本では、日本のよりでできます。 日本に、人に関いたのでは、日本のよりでできます。 日本に、人に関いたのでは、日本のよりでできます。 日本に、人に関いたのでは、日本のよりでは、また。 日本に、人に関いたのでは、日本のよりでは、また。 日本のまたが、日本のよりでは、日本のは、日

Systems Brain Scien

- Гимініко Тача

ma 20



「經濟物理学の発見」元文社新書 (2004) 『エコノフィジックス・市場に潜む物理原列』 日本経済新聞社 (2001)

この10年ほどの間に、経済活動にかかわる環境が 大きく変わりました。ほとんど全ての金額市場の取引が コンピュータネットワークを介して行われるようになり、 スーパーマーケットやコンピニなどの小売店では POSとよばれる評額な販売データが記録され、さらには、 製造業でも工程をコンピュータで管理するようになり、 いたるところに膨大な最の情報が蓄積されています。 製造・推進・消費というあらゆる経済活動に関する 高額度データの山をどのように処理し、何を読み取り いたる所に大きなニーズのある重要な問題です。 物理学の視点とノウハウを最大限に活用して、複雑に 入り組んだ膨大なデータの解析に遺瘍を立てているのが、 私の研究テーマである経済物理学です。

- HIDEKI TAKAYASU 四安 美樹

絶えざる魅力をもち、この問題を考察する多くの技术が なされてきました。私も大きくはこのテーマに 興味をもっています。特に「赤島所性」や「ノイズ」が、 具体的なテーマとしては時間的な非局所性の 一つの現れである信号伝達や相互作用の(遅れ)や 将来の「手側」などが、ノイズの存在するような状況で どのような影響を持つのだろうかという問題や、 時間的なノイズや謎らぎを考えられるような方向は ありえるのだろうかという問題などの考察をしています。 物理、数学、生物、経済や社会にあるさまざまな現象を、 このような問題意識からもアプローチしていけないだろう

- TORU OHIRA

購買パターンの分析や製品の品質管理の問題などに



- Tomomichi Nakamura

- HAJIME INAOKA NEW 25

太平 徹

Graphics, and Vision, Charles River Media.

Nock and F. Nielsen (2006) A Real generalization of discrete AdaBoost,17th Europea Conference on Artificial Intelligence (Elsevier bestone analytics).

F. Nielsen, J.-D. Boissonnat and R. Nock, (2007)
On Bregman Voronoi Diagrams, 18th ACM-SIAM
Suppose on on Proceeds Algorithms

My research focuses on proposing and building a novel area of computer science: computational information geometry. Computational information geometry: Outputational information geometry to used to investigate combinates in structures and discrete algorithms in information-theoretic spaces that nicely generalize Buildean spaces. I am currently considering applications ranging from handling uncertainty (many input) for robust geometric computations of the discrete geometric geometric computations of the discrete geometric geometric computations of the discrete geometric geometric geometric geometric computations and unsupervised classering.

計算機制やの新たな分野として、計算問題を同学を 接近し総合することを目的しています。これは情報理論的 が認における記念のと対象に参加しています。これは情報理論の を設定は対する。方面的なコーラッド原制学を このとの一般なが非常に含まれることになります。 このした機能研究をベールに、ロバストな計算機(学)におけ を不幸から(ソイスのあら人力)の他別。 機能学別(技術ありが祖と教師教しアラスタリング)、 グイスライスコンピューティングなどへの応用を 者よています。 Owada, S., Nielsen, F., Nakazawa, K., Igarashi, T. (2006) Copy-paste Synthesis of 3D Geometry with Repetitive Patterns, Smart Graphics 2006, Lecture Notes in Computer Science (UNCS) vol. 4072, pp. 184-193.

Owada, S., Nielsen, F., Okabe, M., Igarashi, T. (2004) Volumetric Illustration: Designing 3D Models with Internal Textures, ACM Transaction on Graphics (Siggraph 2004 Proceedings), pp. 322-328.

VC賞 太知田 茂, Frank Neiben、五十章 健夫(2005) Volume Catcher ボリュームセグメンテーションのための ユーザーインターフェース)、Visual Computing/GCADシ ンポジウム2005予疑集 p.41-44

believes to appear, CO) at rechange that has the higherent active value. Fifty years of peggess has made the part of great part of the par

コンピュータグラフィックス(CO)は、 最も市場機能の高いコンピュータ技術の一つです。 は10かでのと呼べるものが減りしてからりを完立に ウンネブル、ウマのには18度別を上がけがからない 機能を高田に利成できるようにでき、当たり目かっ 金属不可久を提出としては、同間かられています。 これからの課題は、コンテンツ部門コストを下げることと、 よの風が同りた機能力があった。 そして、より現実に即したでは、同様の対しています。 そして、より現実に即した物体表現として、 ボラムエーデータ(ボリコンロよう)を設定した。 ボラムエーデータ(ボリコンロよう)を設定した。 ボラムエーデータ(ボリコンロよう)を記述けてなく、 イリタが認定したできない。されば、 原理技術としては、自然の情報を認めるがありています。



based approach to per form copying 3D objects in 30 space. Given a few example topies on a 2D plane, the system can automatically permetar numerous copies into 3D space, thereby drattically reducing the reservoir.

ボジェームスアフテレステムは、他様を用いて加 次元的なコピーを行うを示す。ユーザーはDF かなコピーパーンをこの見ず難とに対してあ えらだけて、システムはその人力を分析し、正式 元のコピーパテーンを自動的に表現します。こ れにより、デザイナーの負責を動いに減らすこと ができます。





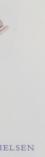
Cyber Code, manufact to full factors on the Vision is a few except feet allows you to menting a proper or proper and income code and the first to lack, and impater and world collects used to public and world collects used to public and world collects and to proper a state of the manufact is 2007, is a product of the manufact in 2007, is a product of the collection.

TARTON STORY



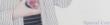
Topol/Engine is a built for fourth. to finding developed by Leif Regime, party with Varie plants at 10 August security in Sung Nambus No. 7000 spread security in Sung Nambus No. 7000 spread security in Sung Nambus No. 7000 spread discounted the Sung Nambus No. 7000 discounted the Sung Nambus No. 7000 spread of the Sung No. 7000 spread of the

Tenting refer to page 100 MEN 112 CONTROL TO STATE OF THE PAGE 100 CONTROL TO STATE OF THE PAGE 100



Spatial Computing

FRANK NIELSEN



大和田 茂

- SHIGERU OWADA







App で Procommunicate to given,
being created on matter to recommendations of the contract of the contract

Computer science, as symbolized by terms like "Cybernetics", originally started as an area of research to purse the essence of relationships, or "intersctions" among various entities. The concept of "Interactions" is not limited by typical user interfaces or HCIs, but can be

I am exploring the styles required for human-computer-real-world systems based on this concept and achieving these. I am developing the FlaceEngine project, which is also of interest as the large-scale integration of sensing, the Internet, and human-

そもそもは "Cybernetics" のような用語に象徴されるように、 「その」ともの「との関係性、またから「インタラクション」の
Retimoth、I_2007 From Folksmonry to Sentonory
Convergence of Real World Activities and Online Space
不満足程度する音を実施として批発しました。
「インタラクション」の概念は、 本質を探究する研究領域として出発しました。 「インタラクション」の概念は、人とコンピュータの関係 Rekimoto, J. (2006) Futures and Alternative Nows. (狭義のユーデ・インタフェース、あるいはHCI) に何まらず、 all Moggridges "Designing interactions", MIT Press 「インタラクション」の概念は、人とコンピュータの関係 人と現実世界、あるいは現実世界とコンピュータ世界・ PlaceEngine Project. www.placeengine.com

敷衍して考えることができます。このような発想に基づき、 あるべき human-computer-realworld 系の姿を想定し、 それを具現化していく活動を行っています。 その具体例として、広域センシング・ ヒューマンコンピュータインタラクション・そして

インターネットの大規模融合事例としても興味深い PlaceEngine プロジェクトを展開しています。

.



財本 制一/家長

インターネット、無線技術、小型携帯デバイスの普及で 私達の日常生活は大幅に変化しています。 このような時代において通常は気づかないまま 倒しいインタラクションスタイルまでをもたらす 技術の開発を目指してます。現在WiFiを利用した PlaceEngineという位置情報サービスに取り組んでおります。 さらに、ローケーションペースな新たな さらに人間とコンピュータが協調する現実と ヴァーチャルの世界が自然と融合される新し



近年インタフェースは、単に人々と情報をつなぐものから 選挙(シタフェースは、単江人を連携者の立ぐものから、 社会所以に用り合作するものとものコンセプトの 秘密域にっています。このようを展示の特別は 特にタンプで顕著で、ノーシャルキットワーキング・ サイトの出現を、「フェーランメート」 ユーザールボンシンで、そして協議アメルタリングなどが 係として挙げるかは、「展出ーンジートの同任作別は 「人間と人間の現在作別になっています。や様は、 多くの電子デバイスが、ネットワーク接続を売り物にし 物理的環境とデジタル環境との間にますます複雑なリンクを 形成していくでしょう。そして、これらのリンタは、 コンピューターネットワータが機械ではなく。 人々をつなぐものだという感覚を拡大させるでしょう。

私の研究は、以下の疑問から生じたセチベーションに 基づいています:我々のデバイスが物理的な位置を 知るとき、どんな行動が現れるでしょうか? ウェブブラウザは我々の社会生活にとっても最も適切な ブラットフォームになりましたか? 人々の間のデジタル接続

We are currently conducting a large-scale prototype experiment with our FlacEngine Beta service. So leading in Internation infrastructure in which location can be determined through Wi. Fi signally with plans for future commercialization. Investigably with plans are application domain that merges the real and virtual worlds to achieve a new network society, and also no crabbin new reliaionships between business and on crabbin new reliaionships between business and

人の思考や感覚、身体性を拡張したり、 コミュニケーションを支援、楽しませてくれる モバイル機器やアプリケーションに興味を持っております。 これまでに、カメラー体型ノートPC、個人インターネット 教送サービス、次世代モバイル機器などの 商品設計や開発企画に携わってきました。 現在 PlaceEngine ベータサービス $(W_i - F_i)$ 電波で位置が分か るソーシャルベースの位置情報基盤)の適用化を見根えた 大規模実証実験に取り組んでいます。 現代ネット社会において、仮想と現実が交替する 新しいアプリケーション領域を提案し 試行締託していくとともに、より人が入らしく 環々しい生活を送るための人とコンピュータとの 新しい関係性についても模索していきたいと考えています。

WW BER

コンピュータは頭が悪い故に使利なものです。 普遍的な利便性及び生産性を追及した結果、私たちは - 真性に対しては変化を望むものです。 ネットワーク接続されたコンピュータ機器は、からく、 日に見えない形で我々の日常生活の中に投通してきており、 技術によって、新しい、変化のある経験を 進化させる良い機会であると私は理解しています。

現在、私は、物理的な感触や形をデジタルデータに 与えるインタフェース、たとえば形が自在に変化する 対話機器、私たちに接触を通じて情報を通じさせる

計算機上の世界は、現実の世界の物理的制的に ほとんど束縛されません。しかし、人間にとっては、 どう融合させると人間と計算機とのインタフェースとして より心地好く使利なものができるのかということに 無味を持っています。具体的には、実世界指向と呼ばれる 手法を用いて機器と機器との繋がりを制御する手法や、 人と人との繋がり即ちコミュニケーションの拡張。 また、デジカメで掘った写真など個人で持つ 大量のデータをどう扱うかなどの研究を行っています。 このようなユーデインタフェースの研究から、 人間の認識や知覚の特性の一場を

機能的な計算機の発達にともない、1次元CQ は映画や ゲームを通じて身近なものとなりましたが、多くの ユーザにとって、1次元空間に対し意図した操作を 行うことは難しいままです。私の研究の興味は、 簡単に楽しく自分のアイデアを反映させることができる、 1次元空間をデザインする点にあります。そのために、 複雑なCOによるリアリティーを追求するのではなく。 様々なメディアと融合させることでの仮想を関の拡張や、 直感的な(性しい)インタラクション予決を実現することに 機能を持っています。簡単なインタラクションと統負の 世界戦でリアリティーを超えることを目的としています。 また、こうした手続は、1次元度関内での クリエーションによるコミュニケーションの実現や。 可能であり、コンピュータを介した情報空間との インタラクションを効果的に支援できるものと





联张 指二



Kodama, S., Miyajima, Y. (2006-2007) *Morphi Towers -- Two Standing Spirals*

出版予定 日本媒体医教育 上海 2007 (Japan Media Arts Fest Channels 2007)

WIRED NEXTFEST 2007 (L.A.



We have been able to lines on music anywhere and at any time since Beliann frex invented the phonograph. However, the average lines each at the document of the phonograph. However, the average lines each at the sine steered in interaction the researching in a interested in interaction between lines ear and music, and I am now researching in other cities when the sine service of the sines where they can actively change music to pieces that make them feel good. I propose a new type of musical centerainment that provides a "generating style" that it hased on the lineseer's actual situation insusted of the pastive lagacy of the "playback style". My approach is based on mile lineseem sensual suitamism insusted of the automatically generates music with the mendatu. I also aim to use sensor to generate unitable music that we'll must home's current feelings and environment. I would evenually like to contribute to the creation of a new musical culture through shirving a world where people can shave and exchange their remixes.

エジソンが著音機を発明して以来、録音された音楽を 好きな場所や時間に聴くことができるようになりました。 しかしながら騒音されたコンテンツは 同じ音が何度でも魅ける一方、ユーザが能動的に 関われる余地はありません。私は音楽とユーザの インタラクションに興味があり、音楽に能動的に 関わることによって自分の気分に変化が表れるような 和互作用を引き起こすシステムを研究しています。 現在の受け身的な「再生」スタイルではなく 秋祝に広じて楽曲を「年成| するスタイルによる 新たな音楽の楽しみ方を提案します。 実際のアプローチとしては特系列の音楽メタデータと それを利用した音楽リミックスエンジンの 研究開発から取り組んでいます。 さらにセンサを組み合わせてその人に合った 音楽アレンジを生成することを念頭に置いています。 最終的には個人が作ったリミックス情報を共有/交換する 世界の実現を通して新しい音楽文化の創造に 質能したいと考えています。

Content Creation & Mee

Yasushi Miyajima

Tajima, S. Nishida, (2007) Y. A Novel Power Suppl System Based on a Packet Exchange Network Architecture, to appear at PESC 2007. The vastanability of our environment is a crucial into which the problem of energy is playing a man rule, growing population requires more energy that craws global warraing, which is posing a stroom problem to all of us. Electricity is not only one of the most common forms of energy bus also the most convenient to take our various requirement. However, it can be wasted because it is invisible, easy to use, readily available, an paid for after it is consumed.

Although conventional electrical energy is highly astandardized and supplied study for a great dark of effort by electric companier, we are now engaged energy and effort by electric companier, we are now engaged to the effort of the electric companier, we are now engaged to the effort of the electric companier of the electric co

すべての人々により、強雄関係ときり魅力していくかが 関係では関係となりのような。中でもより水や一間回は 物質メスはの関係に対して動作性、その地を見しての 地球機能とおいまうに関係しまった状況である。 表するが同じかに最近ではなっている。 表するが同じかに最近ではなっている。 の可能はに関係していまったが、であることで、 地域に関係していまったが、インフェントラフェトとしての 地方としていまったが、インフェントラフェトとしての 地方となったが、インフェントラフェトとしての 地方となっては、一般のと関係できた。一やくこも、 たては一次型に対象したでか、インフェントラフェトとしての 地方となったが、インフェントラフェトとしての 地方となったが、インフェントラフェトとしている。 は、これらの世が振りが出まったが、インフェント では、インイマンとのといまったが、インフェント では、日本の世が振りが出まったが、インフェント では、日本の世が振りが出まったが、イントラントとしていまったが、 本本メイトと対しまったが、インフェントを を活動性といる性がありまたが、インドではことで、 を活動性といる性がありまたが、インドではことで、 を活動性といる性がありまたが、インドではことで、 を活動性といる性が表現をできまたが、それが、 本本メイトと対しまりまたが、それでは、 エスメイトで表が思い、それによりエネトターと をおりたりが出まったが、それでは、 エスメイトで表が思い、それによりエネトターと をおりたければいるが出まったが、それでは、 エスメイトで表が思い、それによりエネトターと をおりたければいるいければいたが、

Distributed & Heterogenrous Systems

SHIGERU TAJIMA

Nishida, Y. (2007) Proximity Motion Detection Using 802.11 for Mobile Devices, IEEE Portable 2007.

Nishida, Y. (2005) Enhancing 802.11 DCF MAC for TCP/IP Communication, IEEE WCNC 2005.

西田後史、村山公保、郑家地二 (2001)「自治議成 インターネット(3)トランスポートプロトコル」自治書店 con overlopment and spread of information communication technologies have crarted a stricty of determining appliances connected to networks. It is no exaggration to any that we are arrounded by networking the consolation and evolutional and evolution to the consolation and another in the consolation for more people to us network to another the consolation for more people to us network to another the consolation for more people to us network to another the consolation for the consol

My research involves developing a communication architecture that will adapt to various user useromodings and provides optimum network environments to users through intuitive interfaces. In exvironments to users through intuitive interfaces to currently developing ubiquitious network platforms the user through the technologies, like IEEE/011, it while also doing research on new transport protocols for future internal services.

芸学の選付付款の表面によって、 展記の発度にも続きく機能がネトンの一方に 接続されるようになってきました。現在の私達は ネトナラー支援機に対象されて進化しているようでする 最高ではありませ、しかしながら、支持をいっ 人によってネトナワーを打機は扱いこのすのが構した。 これからの連続は関連さって、私意をからな、 ネトナワープ環境を無利人、実施に扱いこのすが、 本トナワープ環境を無利人、実施に扱いこのすが、 素型を調整人なってないます。

私の研究課題は多様多様をネットワークの状況に 変数に認定しながら、利用者に貢献的なインタフェースを 提供する適価基盤を実現することです。 現在では1202.00 2011 などの無数は個を利用した ユビキネスネットワータのブラットフィームの研究開発や 学習化トランスタートフィースの研究開発・

Distributed & Heterogeneous Systems

YOSHIFUMI NISHIDA



I POBLE II I Sechnology that allows some input a ling executed of serie result by producing liveral relationship to producing liveral relationship to easy year. I have put a limited that sechnology it expectedly world for much, limited that is a recipility producing produce, Sorge for the limit of Sorge mobile produces with POBLE exists as expected as 2000, all phonore relationally liveral limited to a possible produces also also produced by some liveral relationship.

ユーザが担に入りしたテキメリの自己成り有限を 認知ですることであってまたようからない一一時 かなし、入れてもことを担じまります自然を いた。、同じかから相談ではいるかとは、これ 解析型はなりなかまったユーザルーをのは関すれて また。でのかり有能したフーザルを展現的 があるとなったエーボルーを があるとなった。これ、フー・リン をからかるをおける。これ、フー・リン からからないたと、正式、フー・リン からからないたと、正式、フー・リン









他のに取り(を有アーキャクスキにより、他に しいが取りのライフを対象するセンサールール 選集 選集)の特別関係を推議します。 ののボニンに用まるを見るますることをでき す。



Net, Delive is a motio an project who must such and propagate, data are collected by motion decays, and controlled to the server so that status colleges are ferred or a characteristic

NIN (AMERICAN TO A LABOR TO A LABOR TO LONG TO A LABOR TO A LABOR TO A F. T. T.

CSL Paris was founded in 1996 and is a small but booming research cell, focusing on four areas: personal music experience, computational neuroscience, developmental cognitive robots, and self-organising communication systems.

Research in Personal Music Experience focuses on the fuvar of musical listening by building prototypes of interactive devices and ethnographic experiments to see what people find exciting in music and how new ways of listening integrate in their lives.

The Computational Neuroscience group uses mathematical and computational techniques to make realistic models of the brain, in particular the cerebellum. This is expected to yield radically new idea for building adaptive machines with life-like learning behavior.

The Developmental Cognitive Robotics group tries to work out a scenario in which an auronomous embodirobot in interaction with the environment, other roband human beings, can bootstrap cognitive behavior and intelligence.

Research in self-organising communication systems investigates through computational simulations and mathematical models how a group of autonomous agents could be able to invent and negotiate a communication system similar to human natural

CSL Paris plays a leading role in the areas it has chose to be active in. Produces a steady stream of papers in the most prestigious journals and conferences. The lab viewed as highly innovative and plays a leading role is European IT research. CSL Paris は1996年に設立され、小規模ながら活発な研究活動を 行っています。パーソナライズド音楽体験、計算押額料学、 発達証知ロギット、自己組織化コミュニケーションシステムと いう4つの分野に焦点を当てています。

いつきつのがおい。出版なっていてます。 バーメナライズで自動は頼の研究では、人とつシピュータが イグネラティブに超れが加しなからデイナミタに 音を受けたさめ、メルカのは何や、以限学もよびに発酵的な 実施が加払しる基づきながら、メルオ音のボルルをいかに 以の出する。用で登録的に超していせなくを開これいで どのような難しい関わり方をしていくのかといった音楽の 型したがのが異なる情報と「使している」

計算神経科学の研究では、実際の順、特に小順に関した 数学的・計算的モデルの開催に体んでいます。この研究からは、 本物の生物のような質の選定性を備えた機械という 全く新しいアイデアが生み出されると期待しています。

認知発達ロボット研究では、身体性を購入たロボットは 環境と他のロボットや人間との相互作用を適じて、 いずれ認知的な行動や物性を検索するだろうとの収認のもと 好母心に基づく学習、先達学習、情勤表現の生成についての 理学的、アンジャナ

自己組織コミュニケーションシステムの研究は、計算機による シミュレーションや教学的モデルを用いて、自律エージェント群 が人間の自然言語に似たコミュニケーションシステムをいかに構 後し見損させていくかというプロセスを提覧しています。

CSL Paris は、自ら状態分野を選択し、その分野において 上等的代質を引っています。CSL Paris は最も機械のある学術は や会議で、音楽に次をと論文を使成しています。この研究所は 赤雲に不同の記を心をしたが発展しています。この研究所は 赤雲に不同の記を心をした。ことがあるが関係を考えます。

SONY CSL PARIS

Sony CSL

Human beings are unique because they have developed the capability to central and interpret and anguage. I representations, like graphical images and language. I am interested to understand where this capability has come from, both in our species and in the developing shild. If from in a particular bow eargogeries (lake colours) can be grounded in perceptual experience and develop under the strong influence of language, and how grammars and the semantic domains experience by grammars and the semantic domains experience by grammars and processing in a population of agents.

Applications are far reaching, ranging from adaptive communications a system for humanous closests:

人間は、視覚的な映像や言語のような豊かな表現を生成し 解釈する能力を獲得したという点で、比類がありません。 私は、遊化というタイムスケールにおいて人類という種が、 また発達機能というタイムスケールにおいて一人の子ともが とのようにこの能力を獲得していくか。 その名前を発揮することに実験があります。 最初の表現を表現していくか。 の名前を発揮することに実験があります。 Ban Science, september 2003. その起源を理解することに興味があります。 特に、(色のような)カテゴリーの概念が知覚体験を通じて どのように接地し、言語の強い影響の下で発達するのか、 そしてどのように文法および文法によって表される 意味領域がエージェント集団において出現しうるのかに ロボット向けの適応型コミュニケーションシステムから、 創発セマンテックを持つ進化型のオントロジーや 通信プロトコルなど、広範囲に及びます。

.

知觉的能力、動機付け能力、行動能力、 そして社会的能力を人間とロボットが獲得し、 文化的表現の共有や身体性を有したより自然な対話を 可能にさせるメカニズムに興味があります。 これまでに、言語の起源における自己組織化の 役割の計算理論を構築しました。また、その発展として 自律的認知発達における動機の役割も研究しています。 特に、ロボットに新たなスキルを自主的に獲得させるべく 人工的な好奇心のアルゴリズムについて探究しています。 これは、ロボット上で終わりのない感覚運動的、 認知的発達を実現させることに繋がるものと考えています。

京都作品を制作し、広め、検索する新しい様式に無味が あります。特に、人々がいかに芸術作品を制作し 評価するのか、その方法とこのプロセスにおいて 地域社会が果たす役割を剥奪したいと考えています。

Ikoraを開発しました。既存のメギングサイトとは異なり、 Bornは前條分析と自動分類でユーザータグを確定します。 lkoruは、例えばデータ特徴とタグとの関係を研究する ための、更なる実験へのブラットフォームとして程立ちます。 Reruではまた、大規模な写真のアーカイブを入々が どのようにブラウズし、どのように個人コレクションを 構築するのかを評価に観察できるようになっています。 これらの観察から得られた回察を用いて、私はタギング システムをもっと知的にし、人々を軽微してより創造的な 単者ができるようにしたいと望んでいます。



· PIERRE-YVES OUDEYER

PETER HANAPPE



LUC STEELS ルック・スティールス /所長



時間的な現象が、なぜ我々の社目を引き、持続するのかに 関心を抱いています。音楽を「面白く」するのは何でしょうか? 小説を読み出したらやめられなくさせるのは何でしょうか? 以下の様々な観点から取り組んでいます。設計、すなわち、 魅力的なインタラクティブソフトウェアを設計する方法: 実験心理学、すなわち私たちの注意システムを影作る方法。 そして機械学習:我々のように、我々と共に学習する アルゴリズムを設計する方法です。これらのモデルの応用は、 新しい電子音楽配給スキームから双方向 3D 音楽リスニング環境に まで渡ります。特に、私は「応答的レステム」という概念、すなわち、

(第21、アンラのアファンアを可能してもは第フラフザの 開発に取り組んでいます。 音楽ブラウザは、ユーザに終有の 分類はを学習しようとし、ユーザとのブラウジング和五作用を 開始しユーザを添合い、知らない曲名を見つける助けとなります。

新しい形態を提案するシステムです。このシステムは、 ユーザの音楽の「スタイル」を継続的に学習することにより、 ますます一貫性があり魅力的な音楽的な対話を実現します。 私の現在の間心は、応答的コンテンタ作成、特に作曲に 向けられています。

今日、大泉のマルナメディアコアランアが自宅のコンピュータ。 または簡単線はからできた、インターはフトラウルに共和できます。 材料プルシの音が、ビデオのファイルのアンターは、エーデルとの 地震変素、ビビスクー解的にはアのコンアンターの アクタスに関し、第・の間間を引き起こしています。 扱うたか 人の間には、これによった。 今日前近している数も必要とされていることの一つは、私たちか 今日前近している数も必要とされていることの一つは、 ユーザに自分たち自身のまたは他人のコンテンフにアクセスする 数しい効率的な方法を提供するアルゴリズムとアールを 酸しい効率的な方法を使用するアルコラスなとブールを 設計することです。これらのテールは大規模なコレクションに 合うようにステールアップされ、実施でまたは特別を基本 シームレスに統合できるよう十分ロバストでなければなりません。

これらの問題に対象するには、高位の仕組から効果的実行を

私の研究では、推帯インフラのメディアとネットワークの 機能を、社会的ネットワークの人間のディナミズムと合わせ、 新しい音楽体験を創造することを目指しています。

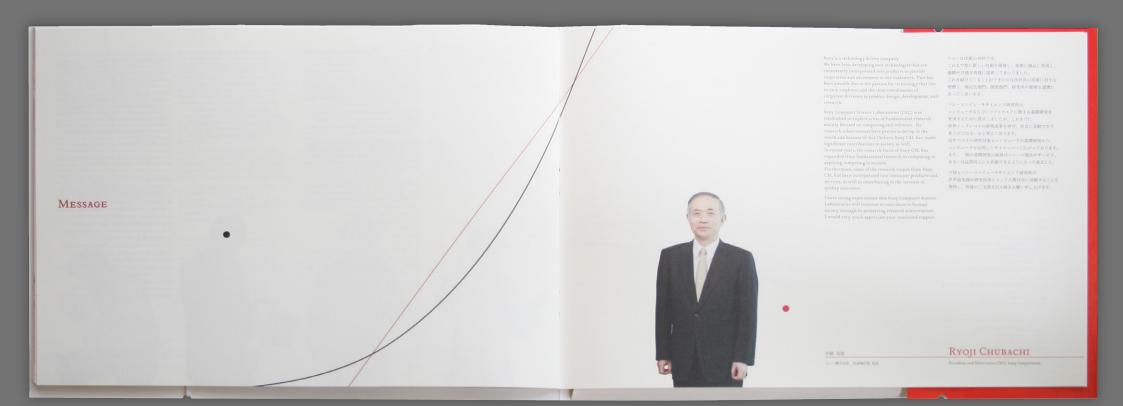
変換し、エンドユーザを設置するかという点にあります。

· ATAU TANAKA

我々が何か新しいことを学ぶとき、新に起こっているのは どうやって保存されるのでしょうか? 建議とは何であり、 我々はどのように、そして何故それに気付くのでしょうか? 困難である能力が数多あります。私は、これらの能力を 人間に与える脳の仕組みを明らかにしたいと考えています。 単一ニューロンの処理を理解し、学習がいかに神経回路で 相互作用の生態学を理解することまでに渡り、 我々の周囲について我々が認識し理解するようになるものを 多くの社会分野に適用可能な知的システムに、新たな 基本的要素を提供するという研究的な質能も狙っています。

· OLIVIER J.-M. D. COENEN





Sony Computer Science Laboratories, Inc. 社会報グラーコンピューサイエン研究所 Takanawa Mus Bidg. 1-14-17, Higashigaranda, Shinagawa-ku, Tokya, Japan 14-022. Tok-18-1-5484-430 Fax: 81-7-548-4371 http://www.nonyol.co.jp/index.abml 〒141-0022 東京都島川区東五友田 1-14-11 高輪ミューズビル Tel: 0.5-5448-4380 Fax: 0.1-5448-4320 bttp://www.sonycal.co.jp/index_j-shtml

Sony Computer Science Laboratory Paris 6, rue Amyot 75005 Paris, France Tel. #31-1-44-08-05-01 Fax: #31-1-45-87-87-50 http://www.cxl.sony.fr/

